厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

家族介護者における疾病とストレスとの関連

研究分担者　伊藤智子　　筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野　助教
研究協力者　Maria Lisseth Morales Aliaga
筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻
博士課程
研究代表者　田宮菜奈子　筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野　教授
筑波大学ヘルスサービス開発研究センター　センター長

研究要旨

本研究では家族介護者における疾病罹患の状況とストレスとの関連を明らかにすることを目的とした。特に、一般的に近年、罹患者数が増加傾向にある悪性新生物（がん）に着目して分析した。2016 年に調査された国民生活基礎調査の調査結果を用いた。対象は家族介護者であり、介護票回答者（要介護者）を主に介護している同居の家族とした。最終分析対象は 2,788 人であった（図 1）。K6 が 5 点以上の高ストレスであった者は 1,050 人（38%）であった。共変量によって調整したロジスティック回帰分析の結果（表 3）、その他の疾病（オッズ比 0.4、95%信頼区間 0.2-0.9）や疾病無し（オッズ比 0.3、95%信頼区間 0.2-0.6）はがんに比べ、高ストレスが少ない傾向にあった。がんを罹患している家族介護者へのサポートを検討していく必要があると考えられる。

A．研究目的

我が国の要介護者（介護保険における要介護認定者）は、年々増加しており、2019 年には 656 万人であった。一方で、在宅の要介護者を介護する家族の負担は長年指摘され、心身ともに健康状態の悪化が問題視されている。その中でも。家族介護者における高ストレス状態は従来から指摘されており、2016 年の国民生活基礎調査の結果では、「同居の主な介護者の悩みやストレスの有無」についてストレスがあると回答したものは全体の 68.9%であった。またそのストレスの悩みとしても「自分の病気や介護」と回答している者は「家族の病気や介護」に次いで多く、疾病を持つ家族介護者のストレスにはより注意が必要と言える。そこで、本研究では家族介護者における疾病罹患の状況とストレスとの関連を明らかにすることを目的とした。特に、一般的に近年、罹患者数が増加傾向にある悪性新生物（がん）に着目して分析した。

B．研究方法

2016 年に調査された国民生活基礎調査の調査結果を用いた。対象は家族介護者であり、介護票回答者（要介護者）を主に介護している同居の家族とした。特定には要介護者の世帯票において「主に介護している者の世帯員番号」から特定した。

さらに 40 歳以上、要介護者一人のみを介護している介護者を選出し、扱った変数に欠損がない者を最終分析対象者とした。

従属変数は、家族介護者のストレスとした。変数定義には、健康票にある Kessler 6 scale（K6）を用い、5 点以上を高ストレスとした。独立変数は、家族介護者の疾病とした。変数定義には、健康票の通院の有無、および通院している主な理由の疾病を用いた。疾病のうち、「うつ病やその他こころの病気」「認知症」「閉経期又は閉経後障害（更年期障害等）」を精神系疾病とし、通院があり精神系疾病およびがん以外の疾病が主な通院理由の者と「その他の疾病」、そして通院のない者を「疾病無し」とした。共変量には、先行研究で家族介護者のストレスに関連すると報告されている項目を用いた。

対象者の基本属性等とストレスとの関連について、カイ二乗検定あるいはウィルコクソン順位和検定を用いた。また高ストレスと疾病との関連について、ロジスティック回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究で用いるデータは、筆者らが受領する以前に個人を特定できる情報は削除されており、個人情報は保護されている。また本研究は筑波大学医学医療系倫理委員会の承認（承認日：2018 年 10 月 19 日、承認番号：1324）を得て実施した（例）。

C．研究結果

最終分析対象は 2,788 人であった（図 1）。K6 が 5 点以上の高ストレスであった者は 1,050 人（38%）であった（表 1）。疾病については（表 2）、がん 36 人、精神系疾病 50 人、その他の疾病 1,682 人、疾病なし 1,020 人であった。高ストレスと有意な関連があった項目は、家族介護者においては年齢、性別、就労、教育歴、睡眠時間、そして疾病であり、また要介護者においては年齢、性別、要介護度区分、要介護時間であった。

共変量によって調整したロジスティック回帰分析の結果（表 3）、その他の疾病（オッズ比 0.4、95%信頼区間 0.2-0.9）や疾病無し（オッズ比 0.3、95%信頼区間 0.2-0.6）はがんに比べ、高ストレスが少ない傾向にあった。一方、精神系疾病はがんに比して高ストレスになりやすく、オッズ比 3.0、95%信頼区間 1.1-8.1 であった。

D．考察

家族介護者のストレスは疾病と関連しており、がんに罹患する家族介護者においては精神系疾病を除くその他の疾病や疾病無しの者に比べて、高ストレスになりやすい傾向がみられた。がんは疼痛や体力低下が起こりやすいと考えられ、また特に生命予後への不安が強いと推測される。そうしたがん特有の療養状況の中、家族介護者においては「自分が介護できなくなったらどうするのか」という将来不安を持ちやすい傾向があると考えられ、がんを罹患する家族介護者に対する精神的なサポートが必要と考えられる。また、家族介護者の健康上の変調に伴って、介護をどのようにしていくかという、将来のケアマネジメントについても予防的にサポートを強化していくことが重要と考えられる。

E．結論

家族介護者のストレスは疾病と関連しており、がんに罹患する家族介護者においては精神系疾病を除くその他の疾病や疾病無しの者に比べて、高ストレスになりやすい傾向がみられた。がんを罹患している家族介護者へのサポートを検討していく必要があると考えられる。

F．研究発表

１．論文発表　なし

２．学会発表　なし

G．知的財産権の出願・登録状況（予定

を含む)

１．特許取得　　なし
２．実用新案登録　なし
３．その他　　なし

図１　対象者の選出

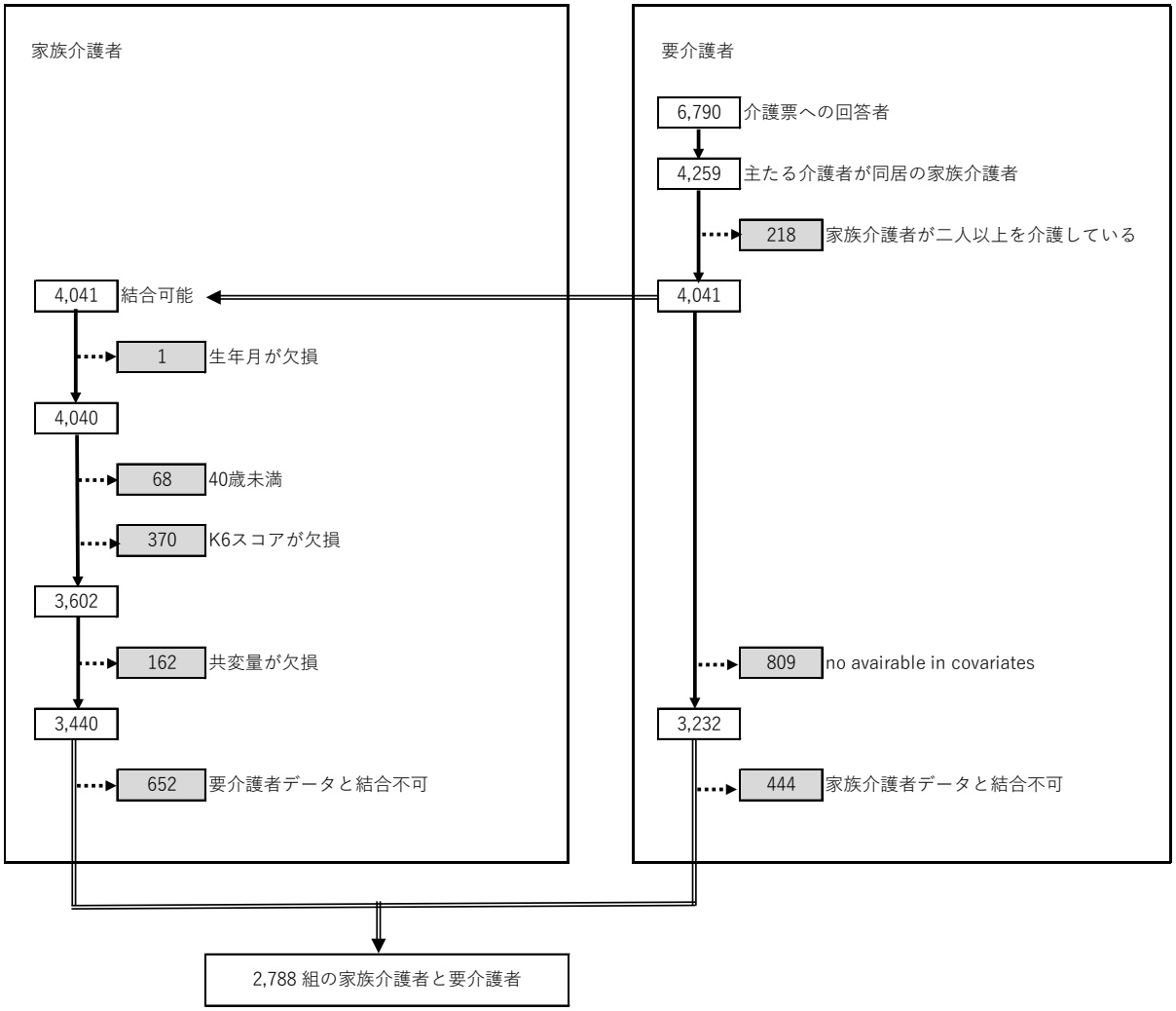
家族介護者
要介護者
6,790
介護票への回答者
4,259
主たる介護者が同居の家族介護者
218
家族介護者が二人以上を介護している
4,041
結合可能
4,041
1
生年月が欠損
4,040
68
40歳未満
370
K6スコアが欠損
3,602
162
共変量が欠損
809
no avairable in covariates
3,440
3,232
652
要介護者データと結合不可
444
家族介護者データと結合不可
2,788 組の家族介護者と要介護者

表 1　対象者の特徴

			K6 スコア 5点未満		5点以上		計	P値	
		全体	1,738	62%	1,050	38%	2,788		
家族介護者	疾病	がん	14	39%	22	61%	36	0.000	
		精神系疾病	9	18%	41	82%	50		
		その他の疾病	1,018	61%	664	39%	1,682		
		疾病無し	697	68%	323	32%	1,020		
	年齢	40-64	806	62%	496	38%	1,302	0.000	*
		65-74	487	65%	259	35%	746		
		75-84	324	58%	234	42%	558		
		85-	121	66%	61	34%	182		
	性別	男性	606	67%	292	33%	898	0.000	
		女性	1,132	60%	758	40%	1,890		
	就労	あり	735	65%	393	35%	1,128	0.011	
		なし	1,003	60%	657	40%	1,660		
	最終学歴	小学校/中学校	429	59%	302	41%	731	0.000	*
		高校	802	62%	492	38%	1,294		
		大学/大学院	507	66%	256	34%	763		
	睡眠時間	6時間未満	671	55%	554	45%	1,225	0.000	
		6時間以上	1,067	68%	496	32%	1,563		
	世帯総支出	20万円/月未満	606	63%	361	37%	967	0.794	
		20万円/月以上	1,132	62%	689	38%	1,821		

P値はカイ二乗検定による。ただし＊はウィルコクソン順位和検定による。

表１　対象者の特徴（つづき）

			K6 スコア					
			5点未満		5点以上		計	P値
要介護者	年齢	40-64	46	51%	45	49%	91	0.000 *
		65-74	185	62%	114	38%	299	
		75-84	598	61%	389	39%	987	
		85-	909	64%	502	36%	1,411	
	性別	男性	598	58%	426	42%	1,024	0.001
		女性	1,140	65%	624	35%	1,764	
	要介護状態となった主な原因疾患	脳血管障害	387	61%	243	39%	630	0.737
		心疾患	74	62%	46	38%	120	
		がん	39	60%	26	40%	65	
		呼吸器系疾患	41	59%	28	41%	69	
		関節疾患	162	65%	89	35%	251	
		認知症	359	61%	228	39%	587	
		パーキンソン病	59	56%	46	44%	105	
		糖尿病	40	57%	30	43%	70	
		視覚障害	24	65%	13	35%	37	
		骨折・転倒	232	64%	130	36%	362	
		神経系疾患	40	59%	28	41%	68	
		老衰	281	66%	143	34%	424	
	要介護度区分	要支援1	172	62%	105	38%	277	0.000 *
		要支援2	267	69%	118	31%	385	
		要介護1	373	61%	240	39%	613	
		要介護2	408	61%	262	39%	670	
		要介護3	259	62%	156	38%	415	
		要介護4	156	58%	113	42%	269	
		要介護5	103	65%	56	35%	159	
	要介護時間	ほぼ1日中	330	54%	278	46%	608	0.000 *
		半日	197	55%	163	45%	360	
		2-3時間	239	64%	133	36%	372	
		ときどき	972	67%	476	33%	1,448	
	家族介護者との続柄	配偶者	670	61%	434	39%	1,104	0.058
		子	633	62%	394	38%	1,027	
		子の配偶者	403	67%	199	33%	602	
		親	5	42%	7	58%	12	
		親戚など	27	63%	16	37%	43	

P値はカイ二乗検定による。ただし＊はウィルコクソン順位和検定による。

表 2　家族介護者の疾病（通院の有無と通院理由の主たる疾病）

	計			K6スコア 5点未満		5点以上	
通院していない	1,020			697	68%	323	32%
通院している	1,768			1,041	59%	727	41%
がん		36		14	39%	22	61%
精神系疾病		50		1	2%	41	82%
うつ病やその他こころの病気			39	7	18%	32	82%
認知症			7	1	14%	6	86%
閉経期又は閉経後障害（更年期障害等）			4	1	25%	3	75%
その他の疾病		1,682		1,018	61%	664	39%
糖尿病			143	94	66%	49	34%
肥満症			5	4	80%	1	20%
脂質異常症（高コレステロール血症等）			101	66	65%	35	35%
甲状腺の病気			26	18	69%	8	31%
パーキンソン病			4	1	25%	3	75%
その他の神経の病気(神経痛・麻痺等)			14	6	43%	8	57%
眼の病気			81	42	52%	39	48%
耳の病気			20	8	40%	12	60%
高血圧症			325	222	68%	103	32%
脳卒中（脳出血、脳梗塞等）			27	15	56%	12	44%
狭心症・心筋梗塞			54	36	67%	18	33%
その他の循環器系の病気			58	29	50%	29	50%
急性鼻咽頭炎（かぜ）			2	0	0%	2	100%
アレルギー性鼻炎			13	7	54%	6	46%
慢性閉塞性肺疾患(COPD)			6	3	50%	3	50%
喘息			22	10	45%	12	55%
その他の呼吸器系の病気			26	17	65%	9	35%
胃・十二指腸の病気			38	19	50%	19	50%
肝臓・胆のうの病気			30	17	57%	13	43%
その他の消化器系の病気			21	13	62%	8	38%
歯の病気			78	60	77%	18	23%
アトピー性皮膚炎			5	2	40%	3	60%
その他の皮膚の病気			22	12	55%	10	45%
痛風			6	3	50%	3	50%
関節リウマチ			23	14	61%	9	39%
関節症			86	44	51%	42	49%
肩こり症			35	20	57%	15	43%
腰痛症			148	74	50%	74	50%
骨粗しょう症			43	29	67%	14	33%
腎臓の病気			22	17	77%	5	23%
前立腺肥大症			27	18	67%	9	33%
骨折			24	13	54%	11	46%
骨折以外のけが・やけど			8	3	38%	5	63%
貧血・血液の病気			13	5	38%	8	62%
妊娠・産褥（切迫流産、前置胎盤等）			52	35	67%	17	33%
不妊症			3	1	33%	2	67%
その他			71	41	58%	30	42%

表 3　家族介護者の疾病とストレスとの関連

		調整済みオッズ比	95%信頼区間
家族介護者の疾病	がん	1.00	
	精神系疾病	3.02	1.09 - 8.35
	その他の疾病	0.43	0.21 - 0.87
	疾病無し	0.31	0.15 - 0.63

調整変数：家族介護者の年齢、性別、就労、教育歴、睡眠時間、世帯総支出、要介護者の年齢、性別、要介護状態となった原因疾患、要介護度区分、要介護時間、家族介護者との続柄